

## 第 11 回 第 13～15 章（建設業と総合原価計算）

<本日のテーマ>

総合原価計算は建設業経理士試験では最近ほとんど出題されていない  
10 回～15 回の 6 回で 5 回出題されているが、16～24 回の 9 回は出題されていない  
そういう傾向と考えた方がよい。

ただ、急に出題されたときにまったく対応できないのはまずいので、ここではテキストで  
はなく過去問を 5 回分確認して解き方をマスターしておこう。  
過去問ゼミの内容を紹介するので、過去問ゼミ学習時に内容は重複するが、重複するくら  
い実施すれば大丈夫でしょう。

とりあえず設例を使用して個別原価計算との違いおよび総合原価計算の基本的な考え方を  
説明しましょう。

- ① 設例 13.1 と 14.1 を確認しておこう  
 これで基礎概念を説明します  
 <13.1>

★個別原価計算（ロット別原価計算）

	205	206	合計
直接材料費	90,000	54,000	144,000
直接労務費	70,000	35,000	105,000
製造間接費	110,000	55,000	165,000
合計	27,000	144,000	414,000
	完成	次月繰越	

※206 は完成していないので全額が期末仕掛品を構成する

★総合原価計算

144,000	80	70	126,000
			(252,000)
(270,000)		10 (5)	18,000 (18,000)

加工費は進捗率完成品換算量を計算する

<14.1>

先入先出法と（総）平均法

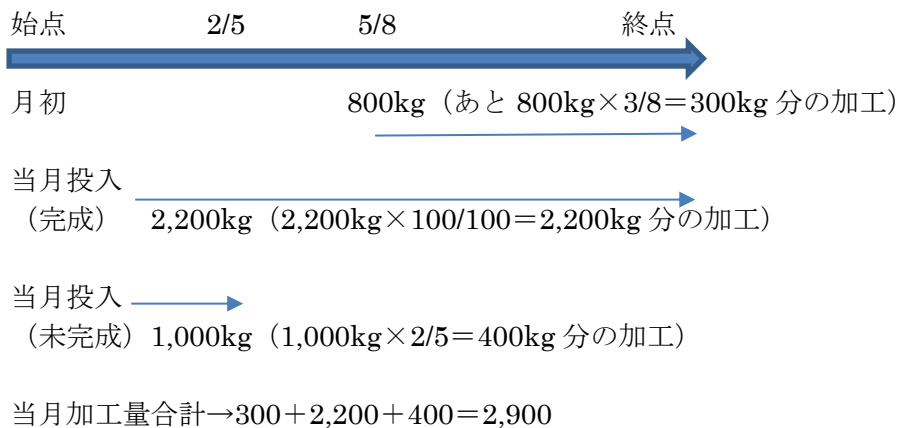
<先入先出法>

200,000 (171,600)	800 (500)	3,000	761,000 (1,046,600)
816,000 (1,015,000)	3,200 (2,900)	1,000 (400)	255,000 (140,000)

<平均法>

200,000 (171,600)	800 (500)	3,000	762,000 (1,047,000)
816,000 (1,015,000)	3,200	1,000 (400)	254,000 (139,600)

<加工換算量の考え方>



② では早速、過去問 15 回から 10 回まで確認しよう

<15 回> 工程別

【第 4 問】 徳島建設株式会社では、第 1 工程と第 2 工程を利用して、仮設用パイプの製造を行っている。次の<資料>によって、工程別総合原価計算（累加法）を実施し、(1) 第 1 工程の月末仕掛品原価及び(2) 各工程の完成品単位原価を算定しなさい。なお、素材は第 1 工程始点においてのみ投入されている。また、計算の過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。 (16 点)

<資料>

1. 月初仕掛品データ

第 1 工程		第 2 工程	
素材費	¥67,000	前工程費	¥87,100
加工費	¥52,800	加工費	¥31,090
数量	?個（加工進捗度 ?%）	数量	80個（加工進捗度 40%）

2. 当月原価データ (単位：円)

摘 要	第 1 工程	第 2 工程	合 計
素 材 費	325,000	—	325,000
賃 金	377,200	285,000	662,200
工 程 経 費	125,000	73,000	198,000
補助部門費配賦額	33,000	34,160	67,160

3. 月末仕掛品データ

第 1 工程 数量130個（加工進捗度 50%）  
第 2 工程 数量100個（加工進捗度 70%）

4. 当月完成品数量

第 1 工程 670個 第 2 工程 650個  
第 1 工程完成品はすべて第 2 工程に投入されている。なお、いずれの工程においても数量のロスはない。

5. 完成品と月末仕掛品への原価配分の方法

第 1 工程 平均法 第 2 工程 先入先出法

<14回>等級別

【第4問】 佐賀建材株式会社では、等級製品AおよびBを工場で生産している。次の<資料>に基づき等級別総合原価計算を行い、各製品の月末仕掛品原価と当月完成品原価を算定しなさい。なお、計算の過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。 (16点)

<資料>

1. 生産データ (単位：個)

	A製品	B製品
月初仕掛量	200 (80%)	400 (75%)
当月投入量	3,300	2,800
合計	3,500	3,200
月末仕掛量	500 (60%)	400 (50%)
当月完成量	3,000	2,800

直接材料は工程の始点で投入される。また、( )は加工進捗率である。

2. 等価係数

	A製品	B製品
直接材料費	1	0.8
加工費	1	0.6

3. 原価データ (単位：円)

		A製品	B製品
月初仕掛品	直接材料費	54,000	89,600
	加工費	5,600	24,000
当月製造費用 (結合原価)	直接材料費	1,495,800	
	加工費	952,000	

4. その他

(1) 等価係数については、直接材料費と加工費とを区別して、当月製造費用を等級製品に按分する際に使用する。

(2) 完成品と月末仕掛品に対する原価の配分は、平均法による。

<13回>組別

【第4問】 八幡工業株式会社では、住宅用建設資材を製造している。次の<資料>に基づき、組別総合原価計算を実施し、A製品、B製品の月末仕掛品原価及び当月完成品原価を算定しなさい。なお、材料は工程始点ですべて投入されている。また、計算の過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。 (16点)

<資料>

1. 月初仕掛品データ

	A製品	B製品
材 料 費	¥38,000	¥53,000
直 接 加 工 費	¥8,500	¥31,200
間 接 加 工 費	¥7,040	¥20,720
数 量	300個(加工進捗度?)	400個(加工進捗度?)

2. 当月原価データ (単位：円)

	A製品	B製品
材 料 費	277,000	176,500
直接加工費	304,900	235,240
間接加工費	420,000	

3. 月末仕掛品データ

A製品 400個(加工進捗度60%)

B製品 200個(加工進捗度70%)

4. 当月完成品と月末仕掛品への原価配分の方法は、平均法による。

5. 当月完成品データ

A製品 2,000個

B製品 1,500個

6. 材料費、直接加工費は、すべて組直接費であり、間接加工費はすべて組間接費である。

7. 組間接費の配賦は、機械運転時間を基準とする。

(単位：時間)

	組 別	時 間
機械運転時間	A製品	7,500
	B製品	6,500

<12回>組別（円未満は四捨五入）

<資料>

- (1) 素材は製造着手時に投入されている。なお、当月において減損等の歩減りは発生していない。  
 (2) 月初と月末の仕掛品数量は次のとおりである。

	A組	B組
月初仕掛品	200個（80%）	120個（50%）
月末仕掛品	150個（40%）	80個（25%）

※（ ）内は加工進捗率を示す。

- (3) 組間接費は機械運転時間法によって配賦する。

A組 930時間

B組 370時間

- (4) 月末仕掛品の評価方法は先入先出法とする。

- (5) 組別総合原価計算表

（単位：円）

摘要		A組	B組	合計	
当月製造費用	組直接費	素材費	565,950	119,700	685,650
		加工費	30,600	32,700	63,300
	組間接費	加工費	(ア)	(イ)	1,014,000
小計		×××	×××	×××	
月末仕掛品	素材費	(ウ)	(エ)	×××	
	加工費	(オ)	(カ)	×××	
差引		×××	×××	×××	
月初仕掛品	素材費	48,000	12,000	60,000	
	加工費	52,000	16,500	68,500	
完成品原価		×××	×××	×××	
完成品数量		2,500個	1,300個		
完成品単位原価		@(キ)	@(ク)		

<10回> (単純)

【第4問】 芦屋建設株式会社では、原材料を加工成型して部材を製造している。次の<資料>に基づき、①平均法による場合と、②先入先出法による場合のそれぞれについて、当月完成品原価、当月完成品単位原価及び月末仕掛品原価を算定しなさい。なお、計算の過程において端数が生じた場合には、円未満を四捨五入すること。 (16点)

<資料>

1. 仕掛品データ

	月 初	月 末
数量	320 個	400 個
加工進捗率	40%	50%

月初仕掛品原価	原 材 料 費	¥97,600
	加 工 費	¥66,400
	合 計	¥164,000

2. 当月製造費用

	原 材 料 費	¥514,211
	加 工 費	¥841,400
	合 計	¥1,355,611

3. 当月原材料投入量 1,580個分

4. 当月完成品量 1,500個

5. 原材料は、製造工程の始点において投入されている。